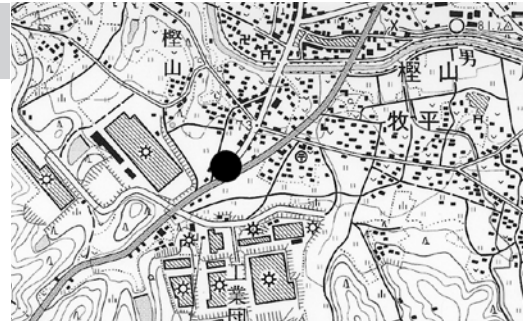


にしまきの
西牧野遺跡

所在地 岡崎市榎山町・牧平町地内
(北緯34度54分52秒 東経137度17分00秒)
調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線
調査期間 平成20年5～6月
調査面積 100㎡
担当者 池本正明・松田 訓・宇佐見守



調査地点(1/2.5万「御油」)

調査の経過 調査は中日本高速道路株式会社による第二東海自動車道横浜名古屋線の建設工事に伴い、愛知県教育委員会の委託を受けて平成20年5～6月に実施した。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を参考に、50ヶ所のテストトレンチを設定した。

立地と環境 西牧野遺跡は、男川によって形成された谷底平野で、河岸段丘下位面にあたり、男川水系の南側に位置する山地裾部から、北西に向かってゆるやかに傾斜する部分にあたる。旧態は窪地や沢の間に水田、畑地などが広がる耕作地で、斜面を削平した部分、盛り土をした部分も含まれ、基盤層までの深度は一様ではない。標高は、約70～80mである。

調査の概要 設定した50ヶ所のテストトレンチの中で、人為的な掘削行為の可能性が確認されたのは18ヶ所、遺物が確認されたのは24ヶ所を数え、遺構・遺物ともに検出された地点は12ヶ所であった。各調査地点では、旧態が水田である場所が多く20cmほどの耕作土が認められた。この下には5cmほどの床土が多く見られた。堆積土層の中で、黒ボクまたはこれに類する黒褐色シルトが認められたのは18ヶ所で、テストトレンチ設定範囲では東側に限られた。

遺構は、径30cm以内の円形小穴がほとんどであったが、中には一定の広さで板状の石が面で捉えられたもの、複数の土坑による切り合い関係が明確なものも検出された。他方で、基盤層直上付近で湧水が激しい地点も認められ、堆積状況から旧態として浅い谷や沼地が想定される地点も見られた。

遺物は、土器細片、山茶碗・皿の小片が多く、近世後期の陶磁器小片も見られた。土器は時期を特定できるものが見られず、集中して検出される例も見られなかった。(松田 訓)



遺構検出状況



調査風景